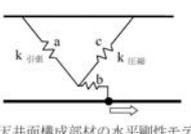
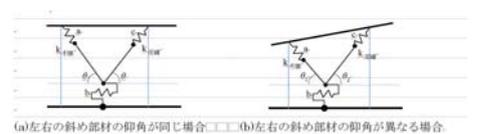
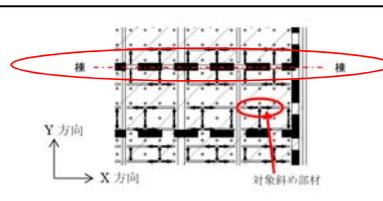
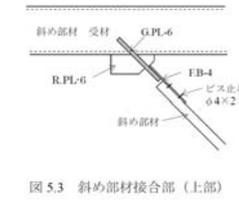
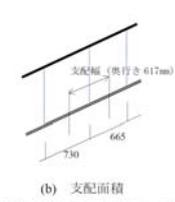


No.	訂正箇所			誤	正																																																																																
	編	頁	行数など																																																																																		
1	目次			第III編なし	【第III編を含めた目次とする】																																																																																
2	I	13	上から4～5行目	必要がある。／また、天井(図1.5参照)の	必要がある。(図1.5参照)／また、天井の																																																																																
3	I	15	上から3行目	全質量を水平投影面積で除して	全質量を天井面の面積で除して																																																																																
4	I	20	図1.19	6m	6m超																																																																																
5	I	21	下から5行目	見受けられことから	見受けられることから																																																																																
6	I	29	下から1行目	$F_b \sin \theta$	$F_b \tan \theta$																																																																																
7	I	30	上から7行目	上端及び下端の接合部	上端の接合部																																																																																
8	I	30	表2.4	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4">上段:天井面構成部材の単位面積質量 (kg/m<sup>2</sup>)</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4">下段:1mあたりのW (kN/m)</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>5</th> <th>10</th> <th>15</th> <th>20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"></td> <td>0.049</td> <td>0.098</td> <td>0.147</td> <td>0.196</td> </tr> <tr> <th rowspan="3">水平震度 k</th> <th>0.5</th> <td>140</td> <td>270</td> <td>410</td> <td>540</td> </tr> <tr> <th>1.3</th> <td>360</td> <td>710</td> <td>1,060</td> <td>1,410</td> </tr> <tr> <th>2.2</th> <td>600</td> <td>1,190</td> <td>1,780</td> <td>2,380</td> </tr> </tbody> </table>			上段:天井面構成部材の単位面積質量 (kg/m <sup>2</sup> )						下段:1mあたりのW (kN/m)						5	10	15	20			0.049	0.098	0.147	0.196	水平震度 k	0.5	140	270	410	540	1.3	360	710	1,060	1,410	2.2	600	1,190	1,780	2,380	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4">上段:天井面構成部材の単位面積質量 (kg/m<sup>2</sup>)</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4">下段:1mあたりのW (kN/m)</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>5</th> <th>10</th> <th>15</th> <th>20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"></td> <td>0.049</td> <td>0.098</td> <td>0.147</td> <td>0.196</td> </tr> <tr> <th rowspan="3">水平震度 k</th> <th>0.5</th> <td>160</td> <td>320</td> <td>480</td> <td>640</td> </tr> <tr> <th>1.3</th> <td>340</td> <td>680</td> <td>1,010</td> <td>1,350</td> </tr> <tr> <th>2.2</th> <td>540</td> <td>1,070</td> <td>1,610</td> <td>2,140</td> </tr> </tbody> </table>			上段:天井面構成部材の単位面積質量 (kg/m <sup>2</sup> )						下段:1mあたりのW (kN/m)						5	10	15	20			0.049	0.098	0.147	0.196	水平震度 k	0.5	160	320	480	640	1.3	340	680	1,010	1,350	2.2	540	1,070	1,610	2,140
		上段:天井面構成部材の単位面積質量 (kg/m <sup>2</sup> )																																																																																			
		下段:1mあたりのW (kN/m)																																																																																			
		5	10	15	20																																																																																
		0.049	0.098	0.147	0.196																																																																																
水平震度 k	0.5	140	270	410	540																																																																																
	1.3	360	710	1,060	1,410																																																																																
	2.2	600	1,190	1,780	2,380																																																																																
		上段:天井面構成部材の単位面積質量 (kg/m <sup>2</sup> )																																																																																			
		下段:1mあたりのW (kN/m)																																																																																			
		5	10	15	20																																																																																
		0.049	0.098	0.147	0.196																																																																																
水平震度 k	0.5	160	320	480	640																																																																																
	1.3	340	680	1,010	1,350																																																																																
	2.2	540	1,070	1,610	2,140																																																																																
9	I	34	図2.7	支持構造部の矢印(先端)	【位置の訂正】																																																																																
10	I	36	図2.8	斜め部材の矢印	【位置の訂正】																																																																																
11	I	37	下から4行目	によって、式(1)では	によって、(2.6)式では																																																																																
12	I	47	図3.1、図3.2	$P_d$	$P_d$																																																																																
13	I	48	上から8行目	インデント	【インデントの訂正】																																																																																
14	I	50	上から8行目	第十二	第11																																																																																
15	I	54	上から1行目～55頁 下から15行目 ②天井面に作用する加速度の算定	全文	【全文の差替え】																																																																																
16	I	55	下から12行目	この場合において、柱相互の・・・できる。	【削除】																																																																																
17	I	81	表6.2(限界耐力計算×仕様ルート・水平震度法)	確認審査のみ	構造適判																																																																																
18	II	85	第II編目次	インデント	【インデントの訂正】																																																																																

1	III	2	上から3行目～上から4行目	・・・、それについても考え方を整理して示すこととした。	・・・、それについても最後に参考として示すこととした。
2	III	1-1-8	上から3行目	・・・基準強度は、	・・・基準強度のうち、建築基準法令に規定のない鋼材の基準強度は、
3	III	1-1-8	表1.2	(変更)	(表1.2の差し替え)
4	III	1-1-12	上から6行目	$\lambda$	$\lambda_b$
5	III	1-1-12	上から9行目	(ゾーニングを考慮し、偶数組とする)	(削除)
6	III	1-1-12	下から8行目	V字型	V字状
7	III	1-1-13	図3.3	(追記)	(凡例)
8	III	1-1-14	上から15行目	B社製品カタログ	A社製品カタログ
9	III	1-1-15	下から3行目	C社製品カタログ	A社製品カタログ
10	III	1-1-16	上から9行目	(追記)	・斜め部材と野縁受けとの緊結(野縁方向)
11	III	1-1-16	上から17行目	C社製品カタログ	A社製品カタログ
12		1-1-16	図4.3のタイトル	図4.3 野縁受けに対する水平力(野縁受け直交方向地震時の野縁受けの検討)	図4.3 野縁方向の斜め部材と野縁受けとの接合
13	III	1-1-18	図4.3のタイトル	図4.3	図4.6
14	III	1-1-18	上から10行目の後	(追記)	・斜め部材と野縁受けとの緊結(野縁受け方向) 野縁受けの強軸方向における検討(例えば、連梁応力解析等)を用い、緊結されていることを確認したA社製品のカタログに記載のある接合方法を用いる。 (連梁応力解析は、ここでは省略する。具体の検討例は設計例1-2のp.1-23～1-25参照)
15	III	1-1-18	下から2行目	D社製品カタログ	A社製品カタログ
16	III	1-1-18	図4.3	斜め部材適用角度 40～55°	斜め部材適用角度 40～60°
17	III	1-1-19	上から1行目	・吊り元接合部の取り付け方法	・吊り元接合部の検討
18	III	1-1-19	上から7.8行目	D社製品カタログ	B社製品カタログ
19	III	1-1-23～1-1-24	図面(A02～A03)	(変更)	(図面表記一部変更)
20	III	1-1-24	一番右上の図のタイトル	■斜め部材下部納まり図(斜め天井:野縁方向)	■斜め部材下部納まり図(野縁方向)

No.	訂正箇所			誤	正
	編	頁	行数など		
21	Ⅲ	1-2-2	下から5行目	(追記)	5-2 天井の耐力計算・・・ ・・・1-2-27
22	Ⅲ	1-2-2	下から4行目	§ 6. 図面	§ 6. 設計図面
23	Ⅲ	1-2-7	上から3行目から	・・・基準強度は、	・・・基準強度のうち、建築基準法令に規定のない鋼材の基準強度は、
24	Ⅲ	1-2-7	表1.2	(変更)	(表1.2の差し替え)
25	Ⅲ	1-2-12	下から11行目～5行目	水平震度法では、・・・ ・・・ゆえに、 $k_w=94.7 \times 10^3 N \leq \sum Q_b=96.2 \times 10^3 N$ ∴ OK	(削除)
26	Ⅲ	1-2-12	上から9行目	(ゾーニングを考慮して、偶数組とする)	(削除)
27	Ⅲ	1-2-13	下から10行目	V字型	V字状
28	Ⅲ	1-2-13	下から3行目	(8) 各部材の接合部は、仕様規定の条件を満たす部材を使用する。	(削除)
29	Ⅲ	1-2-14	図3.3	(追記)	(凡例)
30	Ⅲ	1-2-16	下から2行目	$(T_s/T_{sa})^2+(Q_s/Q_{sa})^2 = (730/2250)^2+(624/8000)^2 = 0.12$	$\sqrt{((T_s/T_{sa})^2+(Q_s/Q_{sa})^2)} = \sqrt{((730/2250)^2+(624/8000)^2)} = 0.35$
31	Ⅲ	1-2-20	上から7行目	・短期許容せん断力	・ビス2本の短期許容せん断力
32	Ⅲ	1-2-20	図5.3	斜め部材接合部(上部:野縁受け方向)	斜め部材接合部(下部:野縁受け方向)
33	Ⅲ	1-2-20	図5.4	斜め部材接合部(上部:野縁方向)	斜め部材接合部(下部:野縁方向)
34	Ⅲ	1-2-20	下から7行目	・斜め部材の存在応力の水平成分(2本分)	・斜め部材の軸力の水平成分(2本分)
35	Ⅲ	1-2-23	下から4行目	・斜め部材の存在応力(1本分)の鉛直分力	・斜め部材の軸力(1本分)の鉛直分力
36	Ⅲ	1-2-23	下から3行目	斜め部材の存在応力(1本分)の水平分力	・斜め部材の軸力(1本分)の水平分力
37	Ⅲ	1-2-23	1-2-23下から3行目	(追記)	・野縁受けが負担する鉛直荷重: $w=22kg/m^2 \times 9.8 \times @0.9m=195N/m$
38	Ⅲ	1-2-23下から2行目～ 1-2-24上から1行目		・野縁受けの強軸曲げに対する検討 吊りボルトのピッチ@900mm 斜め部材は、・・・	野縁受けの強軸方向に対する検討を行う。斜め部材は、・・・
39	Ⅲ	1-2-24	上から3行目	吊りボルトを支点として・・・	吊りボルトを支点(吊りボルトのピッチ:@900mm)として・・・
40	Ⅲ	1-2-24	上から3行目	(図5.10)	(図5.10(a))
41	Ⅲ	1-2-24	上から5行目～上から8行目	$M=39,511N \cdot mm$ $Q=567N$ $N=624N$ となる。	$M=39,511N \cdot mm$ $Q=567N$ となる(図5.10(a)～(d)を参照)。なお、野縁受けに生ずる軸力は、斜め部材1本が負担する水平力となるため、 $N=P_{b2}=624N$ を用いて検討する。
42	Ⅲ	1-2-25	下から11行目	斜め部材の存在応力の	斜め部材の軸力の
43	Ⅲ	1-2-25	下から7行目	$Q_A=800N$	$Q_A=800N$ (B社カタログより)
44	Ⅲ	1-2-25	下から6行目	斜め部材の存在応力を	斜め部材の軸力を
45	Ⅲ	1-2-25	最下行	$Q_A=400N$	$Q_A=400N$ (B社カタログより)
46	Ⅲ	1-2-27	最下行から	(追記)	(「5-2 天井の耐力計算」)
47	Ⅲ	1-2-30～ 1-2-33	図面(A02～A05)	(変更)	(図面表記一部変更)
48	Ⅲ	1-2-31	一番右上の図の タイトル	■斜め部材下部納まり図(斜め天井:野縁方向)	■斜め部材下部納まり図(野縁方向)
49	Ⅲ	1-3-2	下から5行目	(追記)	5-2 天井の耐力計算・・・ ・・・1-3-14
50	Ⅲ	1-3-2	下から4行目	§ 6. 図面	§ 6. 設計図面
51	Ⅲ	1-3-5	上から5行目	建設省告示第1457号第11第2号のただし書きに	建設省告示第1457号第11第2号に
52	Ⅲ	1-3-7	上から3行目から	・・・基準強度は、	・・・基準強度のうち、建築基準法令に規定のない鋼材の基準強度は、
53	Ⅲ	1-3-7	表1.2	(変更)	(表1.2の差し替え)
54	Ⅲ	1-3-9	上から4行目	建設省告示第1457号第11第2号のただし書きに	建設省告示第1457号第11第2号に
55	Ⅲ	1-3-9	下から4行目	A社ユニット試験	B社ユニット試験
56	Ⅲ	1-3-11	下から10行目	V字型	V字状
57	Ⅲ	1-3-11	下から3行目	(8) 各部材の接合部は、仕様規定の条件を満たす部材を使用する。	(削除)
58	Ⅲ	1-3-12	図3.2	(追記)	(凡例)
59	Ⅲ	1-3-14	最下行から	(追記)	(「5-2 天井の耐力計算」)
60	Ⅲ	1-3-17～ 1-3-20	図面(A02～A05)	(変更)	(図面表記一部変更)
61	Ⅲ	1-3-18	一番右上の図の タイトル	■斜め部材下部納まり図(斜め天井:野縁方向)	■斜め部材下部納まり図(野縁方向)
62	Ⅲ	3-2	上から11行目の後	(追記)	2-3 鉛直震度の算定 3-13
63	Ⅲ	3-2	下から3行目の後	(追記)	5-3 天井の耐力計算 3-55
64	Ⅲ	3-2	下から2行目	§ 6. 図面	§ 6. 設計図面
65	Ⅲ	3-4	上から13行目	天井面積: 679.5㎡ (見付面積)	天井面積: 645.3㎡
66	Ⅲ	3-4	上から14行目	A1,A3部分 238.5㎡(各々)	A1,A3部分 221.4㎡(各々) (見付面積 238.5㎡)
67	Ⅲ	3-8	表1.1 3天井の規模の欄	高さ: 6.1m～9.0m 面積: 679.5㎡(見付面積)	高さ: A1,A3部分: 6.2m～9.0m A2部分: 8.6m 面積: A1,A3部分: 221.4㎡ A2部分: 202.5㎡
68	Ⅲ	3-9	表1.1 4天井の許容耐力の欄	地震力: $kW=94.7 \times 103N$ 許容耐力: $\sum Q_b=76 \times 1266=96.2 \times 103N$	A1,A3部分 地震力: X,Y方向 68.6kN 許容耐力: X方向 78.4kN, Y方向 84.7kN A2部分 地震力: X,Y方向 58.2kN 許容耐力: X方向 78.3kN, Y方向 95.8kN

No.	訂正箇所			誤	正
	編	頁	行数など		
69	Ⅲ	3-9	表1.2 4 天井の許容耐力 の設計の欄	柱スパン:10.0m(X方向)<15m	柱スパン:5.0m(X方向)<15m 20.0m(Y方向)>15m
70	Ⅲ	3-9	表1.2 5 壁とのクリアランス の設計の欄	吊り長さ:1200mm<3000mm	吊り長さ:A1, A3部分:1200mm A2部分:1900~2950mm
71	Ⅲ	3-10	上から3行目	…基準強度は、…	…基準強度のうち、建築基準法令に規定のない鋼材の基準強度は、…
72	Ⅲ	3-10	表1.3	(変更)	(表1.3の差し替え)
73	Ⅲ	3-11	表1.4	(変更)	(表1.4の差し替え)
74	Ⅲ	3-12	上から1行目	§ 2. 水平方向の地震力算定	§ 2. 水平方向及び上下方向の地震力算定
75	Ⅲ	3-13	下から1行目の後	(追記)	2-3 鉛直震度の算定 本設計例では、Y方向のスパンが20mであり、15mを超えているため地震時に上下動を考慮する。水平震度法を用いることにより、鉛直震度をKv=1.0とする。
76	Ⅲ	3-14	上から4行目～ 上から6行目	なお、吊りボルトには……を用いる。	(削除)
77	Ⅲ	3-14	上から15行目	cos θ = 0.443	cos θ = 0.433
78	Ⅲ	3-15	下から3行目～ 1行目	3) 斜め部材の引張耐力 斜め部材… 引張耐力…	(削除)
79	Ⅲ	3-18	下から6行目～ 1行目	3) 斜め部材の引張耐力 斜め部材… ① 鉛直長さ… ② 鉛直長さ…	(削除)
80	Ⅲ	3-19	上から9行目	第Ⅱ編 天井の部材・接合部等の耐力・剛性…	第Ⅱ編 天井及びその部材・接合部の耐力・剛性…
81	Ⅲ	3-19	下から8行目	「2.4.2 天井全体の許容耐力・剛性」に基づき、…	「第Ⅱ編 3-7 天井全体の許容耐力・剛性の評価」に基づき、…
82	Ⅲ	3-19	下から7行目	天井全体の水平方向の…	斜め部材1組当たりの水平方向の…
83	Ⅲ	3-19	下から5行目	$\sum \frac{\bar{N}}{K_i}$	$\sum \frac{\bar{N}^2}{K_i}$
84	Ⅲ	3-19	下から4行目	天井全体の水平方向の…	斜め部材1組当たりの水平方向の…
85	Ⅲ	3-19	図3.5	 図 3.5 天井面構成部材の水平剛性モデル	 (a)左右の斜め部材の仰角が同じ場合 (b)左右の斜め部材の仰角が異なる場合 図 3.5-2 天井面構成部材の水平剛性モデル
86	Ⅲ	3-19	下から1行目の後	(追記)	(【参考】全体)
87	Ⅲ	3-20	上から1行目の前	(追記)	(文章、式) なお、左右の斜め部材の仰角が異なる場合の水平剛性は下式により求める。 $f_{h,c} = \sum \frac{\bar{N}_i^2}{K_i} = \frac{1}{K_1} \left( \frac{\sin \theta_2}{\sin(\theta_1 + \theta_2)} \right)^2 + \frac{1}{K_2} \left( \frac{\sin \theta_1}{\sin(\theta_1 + \theta_2)} \right)^2$
88	Ⅲ	3-20	上から4、7、12、17 行目	$\sum \frac{\bar{N}}{K_i}$	$\sum \frac{\bar{N}^2}{K_i}$
89	Ⅲ	3-21	上から2行目	Y方向の斜め部の組数を仮定する	Y方向の斜め部材の組数を仮定する
90	Ⅲ	3-21	上から9行目～ 上から12行目	$\bar{N} = (1.697 \div 469) \times (1/2) = 1.81$ $f_{h,c} = \sum \frac{\bar{N}_i^2}{K_i} = \bar{N}^2 \times \left( \frac{1}{518} + \frac{1}{1410} \right) = 1.81^2 \times \left( \frac{1}{518} + \frac{1}{1410} \right) = 8.65 \times 10^{-3} (\text{mm/N})$ $f = 8.65 \times 10^{-3} + 1.03 \times 10^{-3} = 9.68 \times 10^{-3} (\text{mm/N})$ $K_{11} = 1/f = 103 (\text{N/mm}) = 0.103 (\text{kN/mm}) \approx 0.10 (\text{kN/mm})$	$\theta_1 = 70.7^\circ$ 材, $\theta_2 = 74.6^\circ$ 材より $\sin \theta_1 = 0.94$ , $\sin \theta_2 = 0.96$ , $\sin(\theta_1 + \theta_2) = 0.57$ $f_{h,c} = \sum \frac{\bar{N}_i^2}{K_i} = \frac{1}{K_1} \left( \frac{\sin \theta_2}{\sin(\theta_1 + \theta_2)} \right)^2 + \frac{1}{K_2} \left( \frac{\sin \theta_1}{\sin(\theta_1 + \theta_2)} \right)^2 = \frac{1}{518} \left( \frac{0.96}{0.57} \right)^2 + \frac{1}{1410} \left( \frac{0.94}{0.57} \right)^2 = 7.40 \times 10^{-3} (\text{mm/N})$ $f = 7.40 \times 10^{-3} + 1.03 \times 10^{-3} = 8.43 \times 10^{-3} (\text{mm/N})$ $K_{11} = 1/f = 118.6 (\text{N/mm}) \approx 0.12 (\text{kN/mm})$
91	Ⅲ	3-21	下から2行目～ 1行目	① $Q_{y,1} = 0.10 \times 24 / ((0.10 + 0.16 + 0.10) \times 24) \times (kH_{12}) = 0.28 kH_{12} = 16.3 \text{kN}$ ② $Q_{y,2} = 0.16 \times 24 / ((0.10 + 0.16 + 0.10) \times 24) \times (kH_{12}) = 0.44 kH_{12} = 25.6 \text{kN}$	① $Q_{y,1} = 0.12 \times 24 / ((0.12 + 0.16 + 0.12) \times 24) \times (kH_{12}) = 0.30 kH_{12} = 17.5 \text{kN}$ ② $Q_{y,2} = 0.16 \times 24 / ((0.12 + 0.16 + 0.12) \times 24) \times (kH_{12}) = 0.40 kH_{12} = 23.3 \text{kN}$
92	Ⅲ	3-22	上から8行目	…耐力を勘案し、斜め部材の組数の…	…耐力を勘案し、3-2-1(1)で仮定した斜め部材の組数の…
93	Ⅲ	3-22	上から9行目～ 15行目	2)天井の許容耐力 …ゆえに、kWA1=68.6kN < ΣQb=129.0kN ∴OK	(削除、以降の片カッコ番号を一つ詰める)
94	Ⅲ	3-22	上から20行目	$P_b' = P_b \times F' / Q_b = 2.066 \times 953 / 1.791 = 1,099 \text{N/組}$	$P_b' = F' / (2 \cos \theta) = 953 / (2 \times 0.433) = 1,100 \text{N/組}$
95	Ⅲ	3-22	下から10行目	本設計例では、水平地震力と斜め部材との力の釣り合いは、示力図を用いて算出する。	水平地震力と斜め部材との力の釣り合いの関係を求めるには、3-2-1で示した手法などがあるが、本設計例では示力図を用いて算出する。
96	Ⅲ	3-22	下から5行目	上下動の動きは吊りボルトで負担する…	上下震度による地震力は吊りボルトで負担する…
97	Ⅲ	3-23	上から5～6行目	kWA1=68.6kN F:斜め部材1組が負担できる水平地震力(=1,412N)	(削除)
98	Ⅲ	3-23	上から8行目	従って、仮定により60組を釣り合いよく配置する。	従って、3-2-1で仮定した60組とし、釣り合いよく配置する。
99	Ⅲ	3-23	上から9行目～ 12行目	2)天井の許容耐力… …ゆえに、kWA1=68.6kN < ΣQb=84.7kN ∴OK	(削除、以降の片カッコ番号を一つ詰める)
100	Ⅲ	3-23	下から5行目	…、斜め部材1組が負担できる水平地震力…	…、斜め部材1組が負担する水平地震力…
101	Ⅲ	3-24	上から12行目	…①、②、③とも仮定により割り増した12組とし、…	…①、②、③とも3-2-1(1)で仮定した12組とし、…

No.	訂正箇所			誤	正
	編	頁	行数など		
102	Ⅲ	3-24	上から13行目～26行目	2)天井の許容耐力・・・ ・・・合計 (29.6kN+15.3kN+28.0kN) × 2=145.8kN	(削除、以降の片カッコ番号を一つ詰める)
103	Ⅲ	3-24	下から4行目	斜め部材の軸力(P' b)	(削除)
104	Ⅲ	3-25	下から4行目	3-2-1(2)で算出した地震力Q <sub>Y,1</sub> =16.3kN	3-2-1(2)で算出した片側屋根の地震力Q <sub>Y,1</sub> =16.3kN
105	Ⅲ	3-26	下から3行目～1行目	A2部分においては、鉛直長さの違いにより、斜め部材の組が2種類存在する。鉛直長さ1.4m部分(①)で24組、2.0m部分(②)で24組と仮定により割り増し、釣り合い良く配置する。	A2部分においては、鉛直長さの違いにより、斜め部材の組が2種類存在する。3-2-1(2)で仮定したとおり、鉛直長さ1.4m部分(①)で片側24組(A2全体で48組)、2.0m部分(②)で24組を釣り合い良く配置する。
106	Ⅲ	3-27	上から1～10行目	2)天井の許容耐力・・・ ・・・合計 36.1kN × 2+80.5kN=152.7kN	(削除、以降の片カッコ番号を一つ詰める)
107	Ⅲ	3-27	上から12行目	①鉛直長さ1.4m部分:各24組(両側屋根で48組)	①鉛直長さ1.4m部分:片側屋根で24組(両側屋根で48組)
108	Ⅲ	3-27	下から8行目	水平地震力(右向きにkW)作用する場合	水平地震力(右向きにkW)が作用する場合
109	Ⅲ	3-28全体～3-29の上から5行目		3-3 斜め部材の配置計画 前節にて算定した・・・ ・・・また、図3.10には参考として各ゾーン内に斜め部材を配置した図を示す。	(全体の差し替え)
110	Ⅲ	3-29～3-30	図3.9、図3.10	(追記)	(ゾーニングの表記、凡例)
111	Ⅲ	3-32	上から3～5行目	耐震天井用の接合部材として、・・・ ・・・安全率を採用する。	(削除)
112	Ⅲ	3-32	図5.1 A2部分平面図		(「棟」を追記) 
113	Ⅲ	3-32	図5.3 斜め部材接合部(上部)	(変更) 	(図の差し替え) 
114	Ⅲ	3-33	上から2行目	また、野縁受け方向、野縁方向(図5.4)ともに斜め部材は野縁受けに直接・・・	野縁方向(図5.4)の斜め部材は野縁受けに直接・・・
115	Ⅲ	3-33	図5.4	(変更)	(図の名称(a)(b))
116	Ⅲ	3-34	下から2行目	(鋼構造塑性設計指針を参照)	(削除)
117	Ⅲ	3-35	下から5行目	(b)野縁受け強軸方向の検討(建物鉛直方向)	(b)野縁受け強軸方向の検討(鉛直方向)
118	Ⅲ	3-36	上から4～5行目	$l_b = \sqrt{469^2 + (1,255)^2} = 1,340\text{mm}$ $l'_b = \sqrt{469^2 + (1,631)^2} = 1,698\text{mm}$ $\theta = 69.5^\circ, \cos\theta = 0.276, \sin\theta = 0.961$ $\theta = 73.9^\circ, \cos\theta = 0.350, \sin\theta = 0.937$	$l_b = \sqrt{469^2 + (1,631)^2} = 1,698\text{mm}$ $l'_b = \sqrt{469^2 + (1,255)^2} = 1,340\text{mm}$ $\theta = 73.9^\circ, \cos\theta = 0.276, \sin\theta = 0.961$ $\theta = 69.5^\circ, \cos\theta = 0.350, \sin\theta = 0.937$
119	Ⅲ	3-38下から7行目～3-39上から4行目		6) 天井仕上材と野縁の接合部の設計・・・ ・・・ビス部の許容せん断耐力QA=200N/本 > 17.2N/本 ∴ OK	(「6)天井仕上材と野縁の接合部の設計」の差し替え) (図5.10の追加。以降、5章の図5.17までは図番号が1つずつ増える)
120	Ⅲ	3-39	上から6行目～上から7行目	・・・天井面構成部材及び天井面構成部材に地震その他の震動及び衝撃により生ずる力を負担させるものの重量・・・	・・・天井面構成部材等の重量・・・
121	Ⅲ	3-39	図5.10	(追記)	(b)支配面積の追記 
122	Ⅲ	3-39の下から3行目～3-41の上から3行目		吊り元アングルピースに発生する設計用長期曲げモーメントMLは・・・ ・・・となる。	(全体の差し替え)
123	Ⅲ	3-41	下から6行目	A1部分において、水平地震力(右向きにkW)作用する場合の検討を行う。	A1部分において、水平地震力(右向きにkW)が作用する場合の検討を行う。
124	Ⅲ	3-41	下から3行目	斜め部材1組が負担できる水平地震力F' =1,143N	斜め部材1組が負担する水平地震力F' =1,143N

訂正箇所				誤	正
No.	編	頁	行数など		
125	III	3-42	図5.13		(矢印の削除) 
126	III	3-42	下から7行目	野縁方向に用いる	(削除)
127	III	3-42の下から3行目～3-43の上から7行目		(a)野縁受け直交方向地震時の・・・ ・・・斜め部材からの応力は野縁受け2本で負担させれば良い(野縁のピッチを@330mmとした場合)。	(削除)
128	III	3-43	上から8行目	(b)強軸方向の検討(建物鉛直方向)	強軸方向の検討(鉛直方向)
129	III	3-43	図5.14	(追記)	(凡例)
130	III	3-44	上から1行目の後	(追記)	X方向の吊りボルトピッチ617mmであるので、
131	III	3-46	上から5行目	また、曲げモーメントとせん断力の組み合わせ応力では、	最大応力の発生位置は異なるが安全側の判断として、曲げモーメントとせん断力最大値を用いて組み合わせ応力の検討を行う。
132	III	3-47	上から1行目～15行目	6) クリップ部(野縁受け+クリップ+野縁)の設計・・・ ・・・野縁受け方向: クリップ部の短期許容水平耐力QA=800N > 572N ∴ OK	(「6) クリップ部(野縁受け+クリップ+野縁)の設計」の差し替え) (図5.18の追加。以降、5章の終わりまでは図番号が2つずつ増える)
133	III	3-48	上から3行目～上から4行目	ただし、斜め部材は斜め部材受け材の剛心に接続し、ねじれ応力が発生しないものとして算定をする。	ただし、斜め部材はその材軸が斜め部材受け材のせん断中心を通るように接続されているとし、ねじれ応力が発生しないものとして応力を算定をする。
134	III	3-48	上から6行目の後	(追記)	部材の応力度解析は、MIDAS / iGEN を用いた。
135	III	3-49	上から4行目～上から6行目	断面積: A=1,192mm <sup>2</sup> ... ・・・ly=26×104mm <sup>4</sup>	(文章の削除)
136	III	3-49	下から8行目	短期許容圧縮応力度: $f_c = \frac{18}{65 \times \left(\frac{F}{1.5}\right)^2} \times F \times 1.5 = 49.3N/mm^2$	短期許容圧縮応力度: $f_c = \frac{18}{65 \times \left(\frac{\Delta_b}{\Delta_s}\right)^2} \times F \times 1.5 = 49.3N/mm^2$
137	III	3-49	下から2行目	各荷重は、Pb'=1.099N	各荷重は、Pb'=1.100N (せん断中心位置の追記)
138	III	3-50	図5.19		
139	III	3-52	上から1～4行目	(5) 断面検討 上記にて求めた軸力とせん断力と曲げモーメントの組み合わせ応力について検討を行う。 $\frac{\sqrt{(\sigma_b + \sigma_t)^2 + 3\tau^2}}{f_t} = \frac{\sqrt{(65.5 + 1.03)^2 + 3 \times 2.37^2}}{235} = 0.28 \leq 1.0 \quad \text{OK}$	(5) 断面検討 上記にて求めた軸力とせん断力と曲げモーメントの組み合わせ応力について検討を行う。 部材の軸方向は、曲げモーメント、せん断力に比べ小さいため、省略して検討する。なお、最大応力の発生位置は異なるが、安全側の判断として、曲げモーメントとせん断力の最大値を用いて、強軸、弱軸別に検討する。 強軸方向: $\frac{\sqrt{\sigma_b^2 + 3\tau^2}}{f_t} = \frac{\sqrt{13.4^2 + 3 \times 2.37^2}}{235} = \frac{14.0}{235} = 0.06 < 1.0 \quad \text{OK}$ 弱軸方向: $\frac{\sqrt{\sigma_b^2 + 3\tau^2}}{f_t} = \frac{\sqrt{65.5^2 + 3 \times 2.50^2}}{235} = \frac{65.6}{235} = 0.28 < 1.0 \quad \text{OK}$
140	III	3-53	上から4行目～上から6行目	断面積: A=2,371mm <sup>2</sup> ・・・ ・・・ly=117×104mm <sup>4</sup>	(削除)
141	III	3-56	上から1～4行目	(5) 断面検討 上記にて求めた軸力とせん断力と曲げモーメントの組み合わせ応力について検討を行う。 $\frac{\sqrt{(\sigma_b + \sigma_t)^2 + 3\tau^2}}{f_t} = \frac{\sqrt{(26.1 + 0.23)^2 + 3 \times 1.86^2}}{235} = 0.11 < 1.0 \quad \text{OK}$	(5) 断面検討 上記にて求めた軸力とせん断力と曲げモーメントの組み合わせ応力について検討を行う。 強軸方向: $\frac{\sqrt{\sigma_b^2 + 3\tau^2}}{f_t} = \frac{\sqrt{8.32^2 + 3 \times 1.86^2}}{235} = \frac{8.9}{235} = 0.04 < 1.0 \quad \text{OK}$ 弱軸方向: $\frac{\sqrt{\sigma_b^2 + 3\tau^2}}{f_t} = \frac{\sqrt{26.1^2 + 3 \times 1.05^2}}{235} = \frac{26.2}{235} = 0.11 < 1.0 \quad \text{OK}$
142	III	3-56	図5.24以降から	(追記)	(「F5-3天井の耐力計算」)
143	III	3-57	【参考】全体	(追記)	(全体差し替え)
144	III	3-60～3-64	図面(A02～06)	(変更)	図面表記一部変更
145	III	4-3	下から9行目	6,100mm～9,000mm	6,200mm～9,000mm
146	III	4-5	上から10行目	短辺方向X3、X10通りはレーシングバーを介して	短辺方向X3、X10通りは図1.2のようにレーシングバーを介して
147	III	4-13	下から5行目	長期引張許容耐力	長期許容引張耐力
148	III	4-16	上から10行目	ネット及び	ネット及び
149	III	5-6	上から12～13行目	天井下地材を構成するクリップについては市販品の・・・ハンガーについては開き止め・・・	天井下地材を構成するクリップは市販品の・・・ハンガーは開き止め・・・